

さまざまな立場の参加者がグループになって進めたディスカッション  
提言が生まれました。



▲さまざまな立場の参加者がグループになって進めたディスカッション

年々増加傾向にある不登校児童生徒の問題について考えるフォーラムを開催しました。教職員だけでなく、保護者、PTA役員、区長、学校運営協議会委員の方々に参加していただき、関西外国語大学教授の新井肇さんから「不登校の理解と支援の方向性」というテーマで講演していただきました。その後、「子どもたちが行きたくなる魅力ある学校とは？」というテーマで、参加者がグループに分かれて話し合いました。その結果、「つながり」というキーワードが出てきました。さまざまな人との「つながり」を重視した学校にしていくことが子どもたちにとって、魅力ある学校になるのではないのでしょうかという提言が生まれました。

教職員・保護者・地域住民が参加

子どもが行きたくなる学校とは「子どもたちのための教育フォーラム」

読むことや書くことに困難さを持つことや書くことに困難さを持つ生活に辛さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。そこで、子どもたちの困難さと向き合い、支援方法を全国に広めている「一社読み書き配慮代表理事の菊田史子さんを講師として招き、ICTをテーマに、音声による文字起こしなどのタブレットを使用した具体的な方法を紹介していただきました。教職員・保護者は実際にタブレットを持参して参加し、タブレットを効果的に活用することで、子どもの学習理解が深まり、自信を持たせることができると学びました。



▲菊田さんの講義を受ける教職員と保護者

読むことや書くことに困難さを持つことや書くことに困難さを持つ生活に辛さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。そこで、子どもたちの困難さと向き合い、支援方法を全国に広めている「一社読み書き配慮代表理事の菊田史子さんを講師として招き、ICTをテーマに、音声による文字起こしなどのタブレットを使用した具体的な方法を紹介していただきました。教職員・保護者は実際にタブレットを持参して参加し、タブレットを効果的に活用することで、子どもの学習理解が深まり、自信を持たせることができると学びました。

教職員・保護者が参加

正しい姿勢で子どもたちの未来を築く「読み書きに困難のある児童生徒の支援についての講義」

三木市の教育では、「主体性・協働性・創造力」の三つの力を子どもたちにつけてほしいと考えています。そこで、さまざまな学校を改革してこられた世田谷区立桜丘中学校元校長の西郷孝彦さんを講師として招き、自分たちの学校でどのような改革ができるかをディスカッションしました。参加した市内6校の中学校生徒会役員は、自分たちが経験してきた学校生活とは異なる視点の話に興味津々で、自らの手で学校を創る重要性や可能性について学びました。また、子どもの権利条約や意見表明権などについて知ることができました。ディスカッション後には、自分の学校の新たな取組についてプランを立てて発表するなど、三木の教育の未来に一石を投じる機会になりました。



▲西郷さんにアドバイスをもらいながらディスカッションする生徒たち

三木市の教育では、「主体性・協働性・創造力」の三つの力を子どもたちにつけてほしいと考えています。そこで、さまざまな学校を改革してこられた世田谷区立桜丘中学校元校長の西郷孝彦さんを講師として招き、自分たちの学校でどのような改革ができるかをディスカッションしました。参加した市内6校の中学校生徒会役員は、自分たちが経験してきた学校生活とは異なる視点の話に興味津々で、自らの手で学校を創る重要性や可能性について学びました。また、子どもの権利条約や意見表明権などについて知ることができました。ディスカッション後には、自分の学校の新たな取組についてプランを立てて発表するなど、三木の教育の未来に一石を投じる機会になりました。

子どもたちによる

私たちの未来を築く、未来を創る「各中学校生徒会役員同士のディスカッション」

参加した方の声を聞きました /

地域住民の立場



区長協議会連合会  
会長 鷲尾孝司さん

フォーラムに参加して、一人一人の子どもを見つめながら、日々支援している先生方の思いがよく分かりました。学校が抱えている課題を地域住民と共有し、共に考える場は必要です。今後も積極的に教育に関わってまいります。

保護者の立場

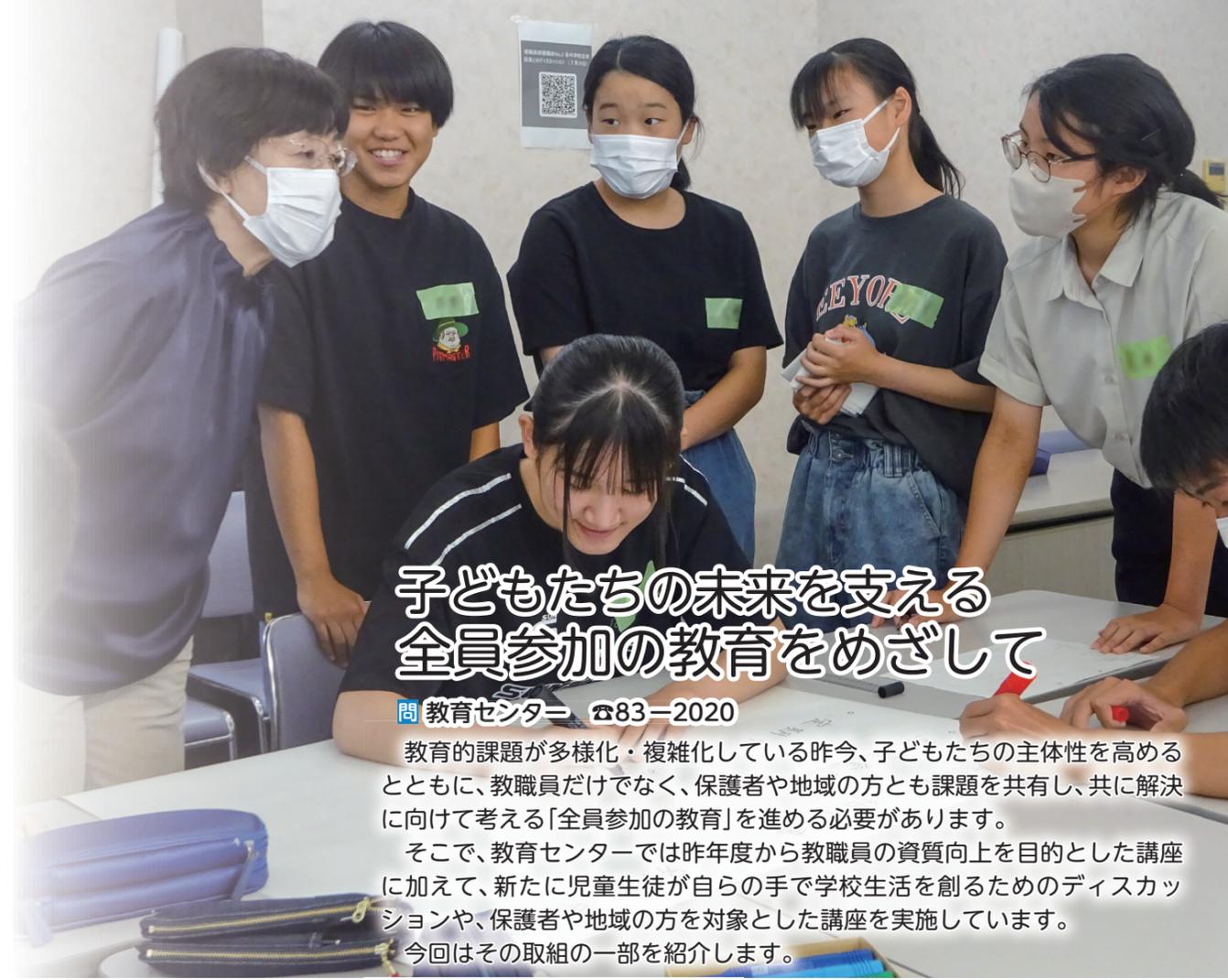
障がいのある子の勉強の助けになるヒントがあればと思い参加しました。今回は、子どもの支援学級の担任の先生も参加されており、セミナー終了後に早速今後の子どもへのタブレットの活用について打ち合わせすることができて、とても有意義でした。

生徒の立場



吉川中学校生徒会  
石田あおいさん

西郷さんのお話を聞いて、絶対にできないと最初からあきらめるのではなく、どうすれば実現できるかについて考え、工夫していくことが大切であると感じました。

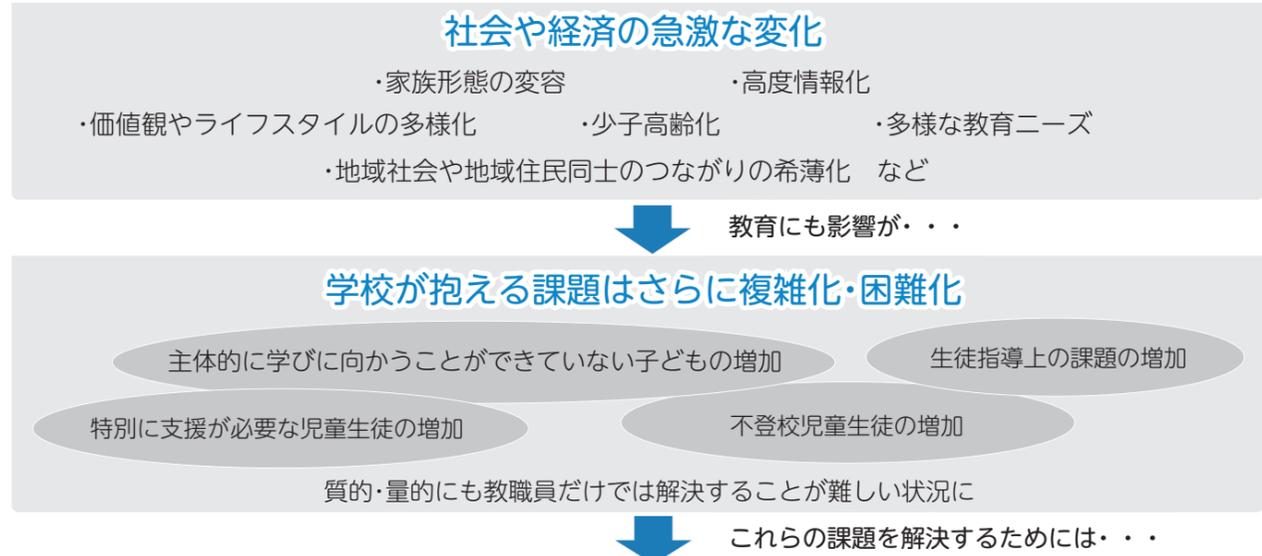


子どもたちの未来を支える  
全員参加の教育をめざして

問 教育センター ☎83-2020

教育的課題が多様化・複雑化している昨今、子どもたちの主体性を高めるとともに、教職員だけでなく、保護者や地域の方とも課題を共有し、共に解決に向けて考える「全員参加の教育」を進める必要があります。そこで、教育センターでは昨年度から教職員の資質向上を目的とした講座に加えて、新たに児童生徒が自らの手で学校生活を創るためのディスカッションや、保護者や地域の方を対象とした講座を実施しています。今回はその取組の一部を紹介します。

全員(子ども・教職員・保護者・地域住民)参加の教育による課題解決



全員参加の教育が必要

文部科学省 中央教育審議会では、昨今の課題を解決していくために学校がより一層地域に開かれ、保護者や地域住民などが学校運営に対する理解を深め、積極的に参画することで、子どもの教育に対する責任を学校、家庭、地域と分担していくことが重要であると取りまとめられました。本市においても「全員参加の教育」を進め、子どもたちが多様な価値観や経験を持った大人と接することによってより厚みのある経験を積み、本当の意味での「生きる力」を定着させていきます。